

式辞

暖かな日差しに春本番の訪れを感じる本日、こうして卒業証書授与式を執り行うことができることを、何よりも嬉しく思います。

3年生のみなさん、卒業おめでとう。

そして、保護者の皆様、本日は誠におめでとうございませう。義務教育9年のご卒業を心よりお喜び申し上げます。また、三年間にわたり、本校の教育活動に温かいご理解と、ご支援をいただきましたことに、厚くお礼申し上げます。

「中央中の新しい時代を築く」

本校が創立され41年目を歩み出す今年一年を、「今までの歴史の上に新たな1ページを加える年」と位置づけてきました。

前向きに授業に臨む姿、工夫改善された生徒会活動、皆の手で創りあげた行事など、まさに新たなページとなる一年でした。その中心となって活躍してきた卒業生の皆さんを称えるとともに、中央中の誇りに思います。

授業を参観していて、ふと気が付くことがあります。教室に入ると、黒板は、前の時間のチョークの跡や黒板を消したまだら模様が残さず消されています。黒板係がいい環境を作っているな、と感心をします。1分前学習で教科係が前に立ち、学習班が呼びかけをしながら問題を解いたりしています。SS活動や全体交流で意見を出し合い、皆で課題を追究しています。

なにげない毎日の光景ですが、そこには、目立たないけれど自分の役割をしっかりと果たしている人、仲間の前に立って行動する人、それを支える人、そして自分がいます。こうした毎日の積み重ねが、素晴らしい一年、素晴らしい三年間を築いてきたのだと改めて感じました。

今年、東京オリンピック・パラリンピックが行われます。オリンピック選手だった君原健二さんの言葉で、私が印象に残っているものを紹介します。

君原選手はマラソンの選手で、1964年に行われた前回の東京オリンピックで8位、次のメキシコオリンピックで銀メダルを獲得した人です。

「あの街角まで、あの電柱まで、あと500メートルだけ…と走りつづけるのが、ボクのマラソンです。」

君原選手は、現役時代の35大会、市民ランナーとして参加した40大会、計75回のフルマラソンで、一度も棄権をしたことがありません。

マラソンは、遠くにあるゴールを目指して走るのですが、漠然と走っていても良い結果をつかむことはできません。ゴールを見失うと、完走もできなくなってしまいます。

君原選手は、目の前に見える街角や電柱などの小さな目標を、その時その時のゴールに置き換えて走りました。そして、決して諦めない様に「500メートル頑張ること」を積み重ねて、42.195キロを走り抜いたのです。

君原選手の言葉は、小さな目標や小さな努力をつなぎ合わせることで、「こんな自分になりたい」「こんなことができるようになりたい」という、大きな目標や願いを叶えることにつながることを教えてくれています。

「卒業」

それは、中学校生活との別れとともに、新しい生活のスタートの時です。皆さんが中央中で過ごした三年間に自信と誇りを持ち、これから始まる新しい生活の中でも、小さな目標・小さな努力を積み重ね自分の願いを叶えていく、そんな人生を歩んで行ってほしいと、強く願います。

卒業生の皆さん一人一人の未来に幸多からんことを祈念し、式辞といたします。

令和2年3月6日

各務原市立中央中学校 校長 鈴木英巳